

4/7/1

DIALOG(R) File 351:Derwent WPI
(c) 2005 Thomson Derwent. All rts. reserv.

009797358

WPI Acc No: 1994-077211/*199410*

Mascara, having high curling power and cosmetic durability - contains silk fibre opt. with other short fibres including nylon(s), and polyester(s) with pigment, preservative, water, acryl resin emulsion etc.

Patent Assignee: KANEBO LTD (KANE)

Number of Countries: 001 Number of Patents: 002

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week
JP 6009340	A	19940118	JP 92191637	A	19920624	199410 B
JP 3020738	B2	20000315	JP 92191637	A	19920624	200018

Priority Applications (No Type Date): JP 92191637 A 19920624

Patent Details:

Patent No	Kind	Lan Pg	Main IPC	Filing Notes
-----------	------	--------	----------	--------------

JP 6009340	A	7	A61K-007/032	
------------	---	---	--------------	--

JP 3020738	B2	6	A61K-007/032	Previous Publ. patent JP 6009340
------------	----	---	--------------	----------------------------------

Abstract (Basic): JP 6009340 A

New mascara contains 0.1-10.0 wt. % of silk fibre of a length of 0.1-2.0mm. The blend ratio of the fibre is pref. 1.0-5.0 wt. %. Other short fibres may be used together, including nylons and polyesters.

ADVANTAGE - The mascara has high curling power and cosmetic durability and retains moisture well without a uncomfortable feeling in the eyebrow.

In an example, a mascara comprising 6.0 wt. % of stearic acid, 6.0 wt. % of beeswax, 3.0 wt. % polyvinyl pyrrolidone, 5.0 wt. % of propylene glycol, 10.0 wt. % of a pigment, 0.5 wt. % of a preservative, 30.0 wt. % of an acryl resin emulsion, 0.1 wt. % of 0.5mm silk fibre and 39.4 wt. % of water was prep'd. showing good properties, e.g. high curling power.

Dwg.0/0

Derwent Class: A96; D21

International Patent Class (Main): A61K-007/032

International Patent Class (Additional): A61K-007/00; A61K-007/02

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-9340

(43)公開日 平成6年(1994)1月18日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 61 K	7/032	9164-4C		
	7/00	K 9164-4C		
	7/02	Z 9164-4C		

審査請求 未請求 請求項の数 1(全 7 頁)

(21)出願番号	特願平4-191637	(71)出願人	000000952 鐘紡株式会社 東京都墨田区墨田五丁目17番4号
(22)出願日	平成4年(1992)6月24日	(72)発明者	高津 昭彦 神奈川県小田原市寿町5丁目3番28号 鐘紡株式会社化粧品研究所内

(54)【発明の名称】 マスカラ

(57)【要約】

【構成】 長さ0.1~2.0mmの綿繊維を0.1~10.0重量%配合することを特徴とするマスカラ

【効果】 本発明のマスカラは、カール力が大きく、化粧持ちが良く、且つ隣に違和感がなく保湿性を有するものである。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 長さ0.1～2.0mmの絹繊維を0.1～10.0重量%配合することを特徴とするマスカラ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、被膜強度の高いマスカラを提供するものであり、詳しくは、絹繊維で樹脂やワックスの被膜を補強した、カール力が大きく、化粧持ちが良く、且つ瞼に違和感がなく保湿性のあるマスカラを提供することを目的としている。

【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】 従来より瞼に塗布するマスカラはワックス、エステルガム、シリコン系樹脂を配合した油性タイプと、アクリル樹脂エマルジョンを配合したエマルジョンタイプが市販されてきた。前者は夏の暑い時期、あるいは水泳等のスポーツをするときに主に使用され、それ以外は主に後者が使用され、これら2種類のタイプのマスカラにおいてカール力が大きく、化粧持ちの良いマスカラの開発が進められている。

【0003】 しかしながら、カール力や化粧持ちを良くするためにワックス、エステルガム、シリコン系樹脂、アクリル樹脂エマルジョンの配合量を増加する方法では、マスカラの粘度が増大し優れた化粧効果が得られないだけでなく、原料臭も強くなり好ましいマスカラが得られなかった。

【0004】 また、従来よりナイロン繊維を配合したマスカラも知られているが、これは瞼の先端に繊維を付着させ、瞼を長く見せることを目的とするものである。また、短いナイロン繊維を使用したとしても、ナイロン繊維は吸湿性に乏しく、保水効果がないため、適当な水分を必要とする瞼に対して生理上好ましくない。またエマルジョンタイプのマスカラにおいては、ナイロン繊維の配合量を増加させると乳化安定性が低下するという欠点があった。

【0005】 そのため、カール力が大きく、化粧持ちが良く、且つ瞼に違和感がなく保湿性のある優れたマスカラの開発が急務となっていた。

【0006】

【課題を解決するための手段】 本発明者はかかる問題を鑑みて鋭意研究の結果、長さ0.1～2.0mmの絹繊維を0.1～10.0重量%配合することにより、樹脂やワックスの被膜を補強した、カール力が大きく、化粧持ちが良く、且つ瞼に違和感がなく保湿性のあるマスカラ

を得るに至った。

【0007】 すなわち本発明は、長さ0.1～2.0mmの絹繊維を0.1～10.0重量%配合することを特徴とするマスカラである。

【0008】 以下、本発明の構成について詳述する。本発明に使用される絹繊維は、家蚕や野蚕が吐く糸を精練した後、これを束にして裁断したものであり、太さが約1～100μmの繊維である。

【0009】 これを配合するマスカラはアクリル樹脂エマルジョンを使用した乳化タイプでも、ワックス、エステルガム、シリコン系樹脂などを配合した油性タイプでも良く、乳化タイプであれば水に均一に分散させてから乳化させるのが良く、油性タイプであれば揮発性溶剤に均一に分散させてから配合すれば絹繊維を均一にマスカラに分散させることができる。

【0010】 また、この絹繊維の長さは0.1～2.0mmが好ましく、0.1mmより短いとカール力や化粧持ちの効果に乏しく、2.0mmより長いと繊維がマスカラのブラシにまとわりつくため好ましくない。

【0011】 また、この絹繊維の配合量は0.1～10.0重量%であり、好ましくは1.0～5.0重量%である。0.1重量%以下ではカール力や化粧持ちの効果に乏しく、本発明の効果はない。また10.0重量%以上ではマスカラの粘度が増加し、化粧効果を著しく阻害するため好ましくない。

【0012】 もちろん本発明は、必要に応じて更に他の短纖維を適宜併用してもよく、ナイロン繊維、ポリエステル繊維などを配合することもできるが、これはあくまでも瞼の先端に繊維を付着させ、瞼を長く見せることを目的として配合するものである。

【0013】

【実施例】 以下、実施例によって本発明の効果を更に詳しく説明する。下記の組成により、各々の実施例及び比較例のマスカラを通常の製法により調整した。次いで下記の実用特性試験、マスカラ被膜の乾燥後の保水率試験を実施し、その結果を表1及び表2に記載した。実用特性試験は、20名の女性パネラーにマスカラを瞼に塗布し、その化粧効果を5段階評価（5：良い、4：やや良い、3：ふつう、2：やや悪い、1：悪い）で評価し、その平均値をとった。また、保水率試験はガラス板に均一の厚さ（100μm）に一定量塗布したマスカラを乾燥して被膜を形成させた後、40℃、湿度70%の恒温槽内で24時間放置させた後の水分量を、重量測定により算出したものである。

【0014】 実施例1

ステアリン酸	6.0
ミツロウ	6.0
ポリビニルピロリドン	3.0
プロピレングリコール	5.0
顔料	10.0

防腐剤	0. 5
アクリル樹脂エマルジョン (樹脂分 50%)	30. 0
綿繊維 (0. 5 mm)	0. 1
純水	39. 4

【0015】実施例2

ステアリン酸	6. 0
ミツロウ	6. 0
ポリビニルピロリドン	3. 0
プロピレングリコール	5. 0
顔料	10. 0
防腐剤	0. 5
アクリル樹脂エマルジョン (樹脂分 50%)	30. 0
綿繊維 (0. 5 mm)	5. 0
純水	34. 5

【0016】実施例3

ステアリン酸	6. 0
ミツロウ	6. 0
ポリビニルピロリドン	3. 0
プロピレングリコール	5. 0
顔料	10. 0
防腐剤	0. 5
アクリル樹脂エマルジョン (樹脂分 50%)	30. 0
綿繊維 (0. 5 mm)	10. 0
純水	29. 5

【0017】実施例4

ステアリン酸	6. 0
ミツロウ	6. 0
ポリビニルピロリドン	3. 0
プロピレングリコール	5. 0
顔料	10. 0
防腐剤	0. 5
アクリル樹脂エマルジョン (樹脂分 50%)	30. 0
綿繊維 (0. 1 mm)	5. 0
純水	34. 5

【0018】実施例5

ステアリン酸	6. 0
ミツロウ	6. 0
ポリビニルピロリドン	3. 0
プロピレングリコール	5. 0
顔料	10. 0
防腐剤	0. 5
アクリル樹脂エマルジョン (樹脂分 50%)	30. 0
綿繊維 (2. 0 mm)	5. 0
純水	34. 5

【0019】比較例1

ステアリン酸	6. 0
ミツロウ	6. 0
ポリビニルピロリドン	3. 0
プロピレングリコール	5. 0
顔料	10. 0

防腐剤	0. 5
アクリル樹脂エマルジョン (樹脂分 50 %)	30. 0
純水	39. 5

【0020】比較例2

ステアリン酸	6. 0
ミツロウ	6. 0
ポリビニルピロリドン	3. 0
プロピレングリコール	5. 0
顔料	10. 0
防腐剤	0. 5
アクリル樹脂エマルジョン (樹脂分 50 %)	30. 0
ナイロン繊維 (0. 5 mm)	5. 0
純水	34. 5

【0021】結果を表1及び表2に示す。

【表1】

【0022】

【0023】
【表2】

	実施例 1	実施例 2	実施例 3	実施例 4	実施例 5	比較例 1	比較例 2
つき	4.5	4.7	4.8	4.6	4.7	4.2	4.0
伸び	4.8	4.7	4.7	4.8	4.8	3.8	2.7
化粧効果	4.2	4.9	4.9	4.5	4.9	3.0	3.6
カール力	4.0	4.8	4.9	4.2	4.8	2.6	2.8
化粧持ち	4.2	4.8	4.9	4.3	4.9	2.9	3.0
瞳への違和感	4.9	4.8	4.6	4.9	4.5	4.8	2.7

【0024】表1より、実施例1～5は比較例1に比べていずれもカール力と化粧持ちに優れていることが明らかである。比較例2は実施例1～5に比べて化粧効果とカール力の効果が低く、またパネラーが瞼への違和感を感じていることがわかる。表2より、実施例1～5は比較例に比べていずれも保水効果に優れていることが明らかであり、実施例2と比較例2より綿繊維を配合した方がナイロン繊維を配合したものに比べて保水効果に優れていることが明らかである。

【0025】実施例6

	実施例1	実施例2	実施例3	実施例4	実施例5	比較例1	比較例2
水分量 (wt%)	5.2	6.8	9.0	6.5	6.8	2.1	1.8

ミツロウ	6.0
デキストリン脂肪酸エステル	5.0
エステルガム	5.0
顔料	10.0
防腐剤	0.3
綿繊維 (0.5 mm)	5.0
軽質イソパラフィン (沸点160～200℃)	62.7

【0026】比較例3

セレシン	6.0
ミツロウ	6.0

デキストリン脂肪酸エステル	5. 0
エステルガム	5. 0
顔料	10. 0
防腐剤	0. 3
軽質イソパラフィン (沸点160~200℃)	67. 7

【0027】結果を表3に示す。

【0028】

【表3】

	実施例6	比較例3
つき	4.5	4.0
伸び	4.8	4.7
化粧効果	4.7	3.2
カール力	4.9	3.0
化粧持ち	4.7	2.7
睫への違和感	4.6	3.1

【0029】表3より、実施例6は比較例3に比べてい

ずれもカール力と化粧持ちに優れていることが明らかであり、油性タイプでも綿織維配合によるカール力と化粧持ちの効果が現れていることがわかる。

【0030】

【発明の効果】本発明のマスカラは、綿織維で樹脂やワックスの被膜を補強することにより、カール力が大きく、化粧持ちが良く、且つ睫に違和感がなく保湿性を有するものである。